

SDGsは世界共通の目標

「ジェンダー平等を実現しよう」

SDGsとは

SDGs（持続可能な開発目標）とは、「世界の中にある環境問題、差別、貧困、人権問題といった課題を世界のみんなで2030年までに解決していこう」という計画、目標のことで、17の目標と169のターゲットから構成されています。また、全体の目標として、全ての人が人権を実現し、ジェンダー平等と全ての女性のエンパワーメントを達成することを目指しています。



今回はその中でも5番目の目標について考えてみましょう。

SDGsの5番目の目標「ジェンダー平等を実現しよう」

全ての女性および女兒に対する、あらゆる形態の差別の撤廃・暴力を排除するとともに女性が自分のことを自分で決めながら生きる力をつけられるようにすることなど、9つのターゲットが設けられています。



ジェンダーってなに？

ジェンダーとは、いわゆる生物学的な性別に対して、世の中の男性と女性の社会的、文化的な役割によってつくられた性別のことです。
例えば、「家事は女性がするもの」「男の子だから泣いたらいけない」など男女の違いによって、周りの人が無意識に抱くイメージや役割分担でつくられたものであり、気付かないうちにジェンダーの不等が生まれます。
「女性だから」「男性だから」と決めつけないで、1人の個人として認めることが大切です。

問合先／ひとみらい政策課 ひとみらい政策G(内線4741)

世界と比べて日本の男女格差はどのくらい？

世界経済フォーラムが各国における「経済」「政治」「教育」「健康」の4分野で、男女の格差を測るジェンダーギャップ指数を2021年3月に発表しました。日本は世界156カ国中、120位。先進7カ国中最下位となっています。特に、政治と経済での順位が低くなっています。
理由として、日本では、政治家や研究者に女性が少ない、男性が女性より所得が多いという収入格差があることなどが挙げられます。

ジェンダーギャップ指数(2021)上位国及び主な国の順位

順位	国名	値	前年値	前年からの順位変動
1	アイスランド	0.892	0.877	-
2	フィンランド	0.861	0.832	1
3	ノルウェー	0.849	0.842	-1
4	ニュージーランド	0.840	0.799	2
5	スウェーデン	0.823	0.820	-1
11	ドイツ	0.796	0.787	-1
16	フランス	0.784	0.781	-1
23	英国	0.775	0.767	-2
24	カナダ	0.772	0.772	-5
30	米国	0.763	0.724	23
63	イタリア	0.721	0.707	13
79	タイ	0.710	0.708	-4
81	ロシア	0.708	0.706	-
87	ベトナム	0.701	0.700	-
101	インドネシア	0.688	0.700	-16
102	韓国	0.687	0.672	6
107	中国	0.682	0.676	-1
119	アングラ	0.657	0.660	-1
120	日本	0.656	0.652	1
121	シエラレオネ	0.655	0.668	-10

これってジェンダー平等？

掃除、洗濯、たぐさんの見えない家事、女性だけがしなければならないことと思いませんか？

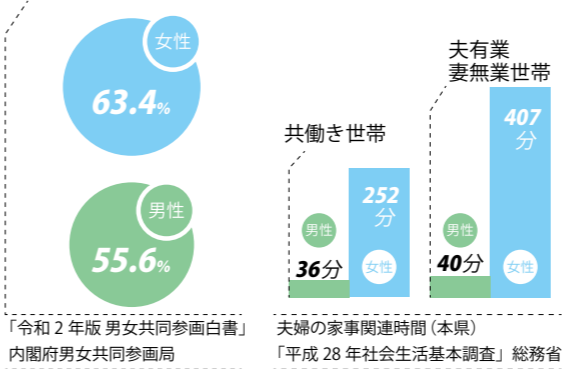
今回は、男性の家事・育児への参画にスポットを当ててみました。

左の表を見てみると、固定的性別役割分担意識に反対という意見が女性も男性も5割を超えています。

しかしながら、夫婦の家事関連時間を見ると、女性と男性の差がこんなにもあることが分かります。皆さんはこの数字を見てどう思いますか？

妻の就業の有無にかかわらず、夫の家事関連時間は、40分程度となっています。※近年の全国における共働き世帯の割合は、約7割です。

固定的な性別役割分担意識に反対



「令和2年版男女共同参画白書」内閣府男女共同参画局
夫婦の家事関連時間(本県)「平成28年社会生活基本調査」総務省

鹿児島県の男性の家事・育児力は全国39位！
(国内住宅メーカー発表)

男性の家事・育児への参画はジェンダー平等への取り組みへの第1歩



家事・育児への参画は、たくさんの「良いこと」があります。「しなければならぬ」ではなく、パートナーとよく話し合いお互いを分かち合いながら、協力し「楽しむ」と決めてやってみましょう。

家事・育児への参画のメリット

1. 経験して初めて知ることがたくさんあり、世界が広がり人生が楽しくなります。仕事にも役立ちます。
2. 家事・育児の中に新しいアイデアが生まれます。
3. 夫婦が力を合わせて同じ経験を積み重ねていくことで心に余裕が生まれ、家族の信頼も強まります。
4. いくつかの物事を同時に行う能力やマネジメント能力が身につきます。
5. 子どもを通じて地域とのつながりが生まれ、地域を知ることや、お互い助け合えるきっかけにもなります。

「手伝っている」って思っていますか？

家事や、育児と一緒にシェアする気持ち大切に。「手伝っている」は、相手に対して当たり前と思ったり、相手のしていることに対して、乗っかっていませんか？
「手伝うよ」ではなく、「一緒にしよう」とパートナーに声を掛けてみてはどうでしょうか。



◎男性の家事・育児への参画には、イクボスの力も必要

男性の家事・育児への参画には、働いている企業(事業所)の上司の理解が大切です。早く帰宅できるような残業削減の取り組みや職場全体の働きやすい環境を整え、家事・育児へ参画しやすい職場作りを目指すことも重要です。

ひとみらい政策課長

入枝哲也



今年7月の男女共同参画フォーラムの講演において、海外の方に「イクメン」という英単語を尋ねたところ、「Father(父親)」と返ってきたとの話を聞いて、思わず笑ってしまいました。海外では、男女ともに育児をすることが当たり前で、男性が育児をすることを取り立てて、別の言い方はしないそうです。イクメンという言葉自体が、育児は女性がするものという固定概念のもとに生まれた日本独自のものということなのでしょう。

男性の家事育児参画のためには、一人一人が「男性は仕事、女性は家事育児」といった古い価値観を捨てるのが大事です。まずは、それぞれの家庭で話し合うことから始めてみませんか？
市では、そのための「おうち時間ミートイングシート」を作成しています。ホームページからダウンロードできますのでご利用ください。

また、男性の家事育児をテーマにしたセミナーや講座も開催していますので、ぜひご参加ください。
男性の意識や働き方が変わること、家庭・地域・職場が、そして社会全体が変わっていく、いつか「イクメン」という言葉がなくなる日がくる、といいですね。



▲市HP